

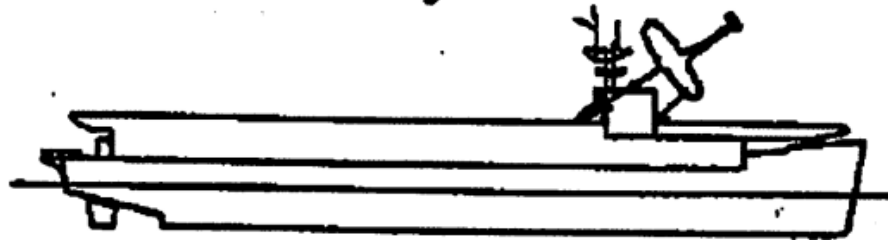
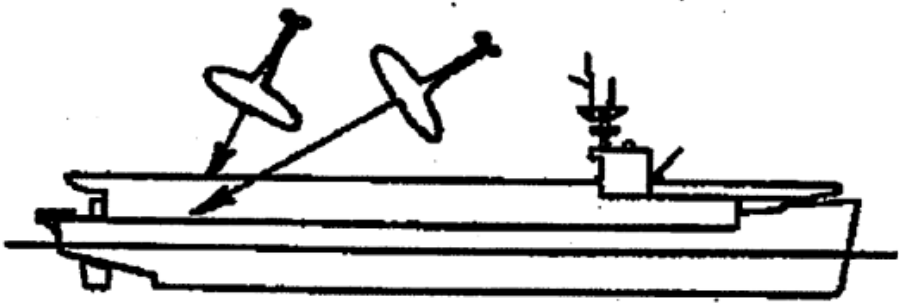
## 第2次世界大戦中の米海軍艦艇被害一覧

艦種	航空機による攻撃					潜水艦による攻撃		水上艦による攻撃				機雷	陸上砲火	行方不明	合計
	爆弾	魚雷	爆弾&魚雷	特攻	機銃掃射	魚雷	衝突	魚雷	砲撃	魚雷&砲撃	爆雷				
戦艦(BB)	5	3(1)	4(1)	16		1			2				7		38(2)
空母(CV)	13	2	2(2)	15		4(2)									36(4)
軽空母(CVL)	2(1)	1		3											6(1)
護衛空母(CVE)	2			17(3)		2(2)			4(1)						25(6)
巡洋艦(CA)	3	2(1)		5		2(1)		4(1)	6(1)	5(3)			3		30(7)
軽巡洋艦(CL)	10	4	2	8		2(1)		3(1)	4	1(1)			2		36(3)
駆逐艦(DD)	45(10)	6(4)	1(1)	95(13)	3	14(10)	2	10(7)	25(6)	2(2)	3	15(4)	28(1)	3(3)	251(61)
護衛艦(DE)	2	2		24	1	11(7)	2		2(1)			2(1)	1		47(9)
合計	82(11)	20(6)	9(4)	183(16)	4	36(23)	4	17(9)	43(9)	8(6)	3	17(5)	41(1)	3(3)	469(93)

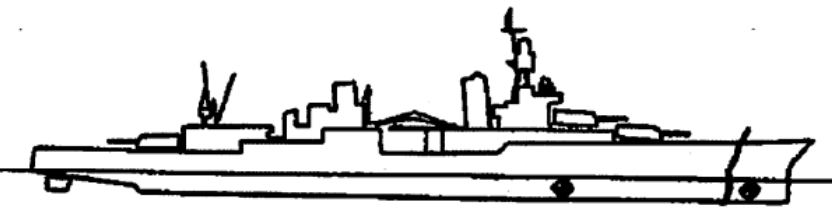


括弧内数字は消失艦の数(米海軍による処分を含む)

出典: 米国DAMAGE CONTROL MUSEUM, WORLD WAR II DAMAGE REPORTS




1945年における米艦艇戦闘被害(沈没)概要①

艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
OMMANEY BAY (CVE79)	1945.1.4	ミンドロ島海域	日本軍の特攻攻撃(1機)	米海軍により処分	<p>特攻機が2本の爆弾を投下後、機体を体当たりし爆発。1発目の爆弾は飛行甲板のFR. 70付近に命中し、格納庫甲板まで到達、兵装中および燃料を搭載した航空機が引火爆発。2発目の爆弾は燃料タンクの上部隔壁付近で爆発、前部機械室に火災発生。魚雷格納庫まで引火し、火災制御不能となったため、米海軍により処分沈没。</p> 
BISMARCK SEA (CVE95)	1945.2.21	硫黄島海域	日本軍の特攻攻撃(2機)	転覆し艦尾から沈没	<p>特攻機が艦尾右舷格納庫に突入、格納庫内が火災となる。2機目の特攻機が爆弾を飛行甲板に投下後後部エレベータ付近に突入。駐機中の航空機が火災となり艦後部は大火災となる。火災発生から17分後、魚雷格納庫が爆発し、艦後部は大破、艦は大浸水となり右舷から転覆し5分後に沈没。</p> 

## 1945年における米艦艇戦闘被害(沈没)概要②

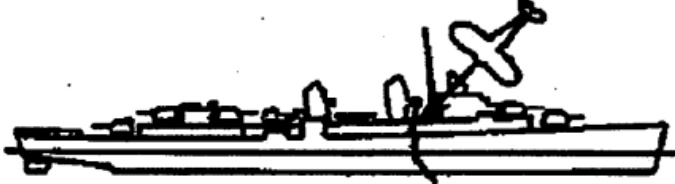


艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
INDIANA-POLIS(CA35)	1945.7.30	レイテ東方海域	日本軍の潜水艦による魚雷攻撃(2発)	転覆し艦首から沈没	<p>潜水艦から発射された2発の魚雷がほぼ同時に命中。1発目はFR. 6付近に命中し船首部が切断、2発目はFR. 45付近に命中し大衝撃と大きなひずみが発生、第2甲板が大浸水となり全ての動力及び通信が不能となる。右舷から転覆し被攻撃から15分後に艦首から沈没。</p> 
REID(DD369) 基準排水量 1500ton	1944.12.11	レイテ島海域	日本軍の特攻攻撃(2機)	横転し艦尾から沈没	<p>1機目の特攻機が1番煙突付近の右舷水線上に突入、浸水と火災が発生。爆弾を抱いた2機目の特攻機が後部3、4番5インチ砲の間に突入し、5インチ砲格納庫が誘爆、後部に重大な構造損傷及び大破口が発生。右舷の傾斜が大となり特攻機突入から2分後に横転、艦尾から沈没。</p> 
HALLIGAN(DD584) 基準排水量 2100ton	1945.3.26	沖縄海域	触雷(1発)	船体切断	<p>前部5インチ砲付近艦底に触雷し、FR. 74付近で船体が切断、前部は沈没し、残った船体も全部ボイラ室及び機械室が浸水、前方に大きくトリムがかかり、プロペラは露出状態となる。触雷から45分後に艦を放棄、後部の船体は12マイル漂流後、浅瀬に座礁。</p> 

### 1945年における米艦艇戦闘被害(沈没)概要③




艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
BUSH (DD529) 基準排水量 2100ton	1945.4.6	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃 (3機)	船体折れ曲 がった後沈 没	<p>1機目の特攻機が爆弾を抱いて船体中央部右舷上甲板に突入、前部機械室で爆発し破口が発生し火災も発生。2. 5時間後に2機目の特攻機がほぼ同じ箇所に突入し、大火災となる。その15分後に3機目の特攻機が前部5インチ砲付近の左舷に突入し弾薬格納所で火災発生。1機目の突入から3時間後に船体は折れ曲がり沈没。</p> 
COLHOUN (DD801) 基準排水量 2100ton	1945.4.6	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃 (4機)	米海軍により 処分	<p>1機目の特攻機が爆弾を抱いて後部機械室上部の上甲板に突入、後部機械室で大火災及び浸水発生。その4分後に2機目の特攻機が前部機械室上部の上甲板に突入し1番ポイラ付近で爆弾が爆発、火災と浸水が発生し艦の全動力を失う。その7分後に40mm機銃付近に3機目の特攻機が突入、搭載していた爆弾はFR. 170付近の右舷至近距離で爆発、居住区と弾庫に浸水発生。右舷に傾斜するとともに後トリムとなる。その後4機目の特攻機が突入するも、艦橋付近をかすめて海面に激突。艦は23度傾斜し、上甲板は後部5インチ砲付近まで水没した。僚艦により曳航を試みるも2機目の突入に起因する構造欠損により断念、米海軍により処分沈没。</p> 
MANNERT L. ABELE (DD733) 基準排水量 2200ton	1945.4.12	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃 (特攻機1機 及び桜花1 機)	船体切断後 沈没	<p>爆弾を抱いた特攻機1機が後部機関室付近の右舷上甲板下に突入、ほぼ同時に人間爆弾桜花(米軍ではBAKA BOMB(馬鹿爆弾)と呼称)が前部機関室右舷付近の水線に命中、全出力を失う。左舷に大傾斜し、船体中央部の縦強度を著しく消失し、桜花命中後3分後に船体は2つに切断し、その後沈没</p> 






1945年における米艦艇戦闘被害(沈没)概要④

艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
PRINGLE (DD477) 基準排水量 2100ton	1945.4.16	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃(1 機)	船体折れ曲 がった後沈 没	爆弾を抱いた特攻機1機が艦橋右舷をかすめた後、前部機械室上部の上甲板に突入、突入後の爆発により付近の甲板、隔壁、船体構造及び煙突が破壊され重大な損傷を受ける。船体は折れ曲がり、前部機械室付近でその後船体が切断、5分後に沈没。 
LITTLE (DD803) 基準排水量 2100ton	1945.5.3	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃(4 機)	船体折れ曲 がった後沈 没	爆弾を搭載した4機の特攻機が船体中央部に突入、後部機械室が破壊されるとともに大浸水し、縦強度を喪失、船体が折れ曲がった後14分後に沈没。 
LUCE (DD522) 基準排水量 2100ton	1945.5.4	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃(2 機)	横転し艦尾 から沈没	爆弾を搭載した特攻機が右舷船腹に突入、衝撃で砲とレーダーの電力を喪失、2機目の特攻機が1分後に後部上部構造物に突入し、爆弾が後部機械室で爆発し、船体構造に重大な被害を生じた。第2甲板が大浸水となり船体は横転、最初の特攻機突入から4分後に艦尾から沈没。 



1945年における米艦艇戦闘被害概要⑤

艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
MORRISON (DD560) 基準排水量 2100ton	1945.5.4	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃(4 機)	横転し艦尾 から沈没	爆弾を搭載した特攻機が前部煙突付近の上甲板に突入、2機目が後部機 械室上部の上甲板に突入、後部機械室に大破口が発生し後部機械室と罐 室が浸水。重大な油火災も発生。3機目は第3・5インチ砲右舷側に突入し 上部操縦室で爆弾が爆発、4機目は第4・5インチ砲付近に突入し右舷船腹 に破口発生、第2甲板居住区が浸水。強烈な火災が発生し艦尾は水没、右 舷側に回転しつつ艦は横転、1機目の突入から9分後に沈没。 
LONGSHAW (DD559) 基準排水量 2100ton	1945.5.13	沖縄海域	日本軍によ る陸上から の砲撃	米海軍により 処分	船体が座礁中、陸上から日本軍の小口径砲の砲撃を受ける。1弾目が前部 機械室に命中、2弾目が第4・40mm砲近傍で爆発、3弾目が第4・5インチ 砲上部操縦室付近で爆発し火薬に引火、4弾目が艦橋左舷に、5弾目がCI Cに命中、6弾目が第2・5インチ砲上部操縦室に命中し、弾庫に引火爆発。 艦橋より前部側の船首構造が吹き飛ぶ。火災は延焼し制御不能となったた め、艦を放棄、米海軍により処分。 
DREXLER (DD741) 基準排水量 2200ton	1945.5.23	沖縄海域	日本軍の特 攻攻撃(2 機)	横転し艦尾 から沈没	はじめの特攻機が後部罐室付近の上甲板直下右舷に突入、ガソリン火災 が急速に延焼。40mmレディーザービス弾に引火。後部罐室と機械室の蒸 気管が破裂し漂流状態となる。後部機械室に破口発生し右舷側に傾斜。爆 弾を搭載した2機目の特攻機が第2煙突後部の上甲板に突入、船体は横転 し2機目突入から49分後に艦尾から沈没。 

1945年における米艦艇戦闘被害概要⑥

艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
WILLIAM D.PORTER (DD579) 基準排水量 2100ton	1945.6.10	沖縄海域	日本軍の特攻攻撃(1機)	横転し艦尾から沈没	<p>特攻機が後部機械室横の左舷で海面に突入、突入直前に投下された爆弾が船体内部で爆発し、機械室が浸水、浸水は損傷した隔壁や水密扉を通じて後部罐室や後部居住区にも広がり後部上甲板まで水没、ポイラ水の給水が不能となり艦の動力を消失、艦は横転し、特攻機突入から3時間後に艦尾から沈没。</p> 
TWIGGS (DD591) 基準排水量 2100ton	1945.6.16	沖縄海域	日本軍の航空魚雷及び特攻機(1機)	弾庫爆発による爆沈	<p>航空機から発射された魚雷が前部弾庫付近右舷に命中、爆発し船首部が上部に折れ曲がったが切断はせず。しかしながら前部で火災が発生、魚雷を投下した航空機はその後特攻機となって第3、第4砲塔付近に突入し火災が発生、20mm及び40mm弾薬が火災にさらされたため艦を放棄。はじめの爆発から45分後に弾庫が爆発し、艦は爆沈。</p> 
CALLAGHAN (DD792) 基準排水量 2100ton	1945.7.29	沖縄海域	日本軍の特攻攻撃(1機)	艦尾から沈没	<p>爆弾を搭載した特攻機が第3砲塔上部操縦室に突入し、爆弾が後部機械室で爆発、舵制御が不能となり、重大なガソリン火災も発生。第3砲塔上部操縦室が延焼し、弾薬が誘爆。右舷に15度傾斜するとともに後ろトリムとなる。浸水は後部居住区にも広がったため艦を放棄。魚雷も火災にさらされたが爆発はせず。火災は延焼を続け、特攻機突入から2時間後、乗員の移乗中に艦は艦尾から沈没。</p> 

1945年における米艦艇戦闘被害概要⑦

艦名(番号)	消失日	消失場所	消失原因	消失形態	被害概要
FREDERICK C.DAVIS (DE136)	1945.4.24	大西洋	ドイツ軍潜水艦による魚雷攻撃	船体切断し沈没	<p>潜水艦の発射した魚雷が前部機械室のFR. 61左舷側に命中、艦の両舷を破壊し、船体はサグ状態となって2つに切断、15分後に後部側が沈没、前部側はその30分後に沈没。</p> 
UNDERHILL (DE682)	1945.7.24	ルソン海域	日本軍の人間魚雷	米海軍により処分	<p>人間魚雷が艦橋直前部の船体に突入、船首部はFR. 58付近で切断、前部罐室が暴露状態となるも火災は発生せず。後部側の船体は比較的安定していたが、前部側船体は船底を上にして浮いた状態となる。米海軍により処分。</p> 



## 米海軍艦艇被害の特徴

- 大日本帝国陸海軍による航空特攻が最も成果を挙げている(米軍が特攻を極端に恐れていた証左)
- 突入した特攻機の当たり所が良ければ1機で空母も撃沈(弾薬庫、ガソリン燃料誘爆等)
- 当たり所が悪くないと複数機突入しても撃沈に至らない場合あり
- 帝国海軍による最後の大戦果は1945. 7. 30 Guam島に原爆を運搬した巡洋艦インディアナポリスをイ号潜水艦が撃沈
- 人間魚雷回天により護衛駆逐艦を撃沈した戦果が報告
- 人間爆弾「桜花」による戦果も報告
- 沖縄戦では陸上砲火で米艦船を撃沈した事例が報告